

阿部クリニック 様

無床診療所様向けクラウド型電子カルテシステム TX Simple type

「生成AI音声入力」機能の販売開始

～阿部クリニック様で実現した、患者との対話を充実させる新しい診療スタイル～

富士通Japanは2026年7月23日より、無床診療所様向けクラウド型電子カルテシステム「HOPE LifeMark-TX Simple type」を対象に、生成AI音声入力のオプションを販売開始する。カルテ入力の負担軽減と患者に向き合う時間の創出を支援するため、医師と患者の会話をリアルタイムに文字起こし、AIがSOAP形式（Subject：主観的情報、Object：客観的情報、Assessment：評価、Plan：計画）に基づく診療記録を自動生成する。試験運用として導入した兵庫県神戸市の阿部クリニック様では、「患者ひとりひとりと向き合い、丁寧な説明を心がける」という理念のもと、患者との対話を重視した診療スタイルを維持しながら、詳細な診療記録の作成と院内での情報共有を実現した。

生成AI音声入力は、利用者向けに2026年8月31日以降提供開始するとともに、AIを搭載した電子カルテの普及に先駆け、2028年3月末までに100件の導入を目指す。

課題

- 患者との対話を重視する診察スタイルの維持とデジタル化の両立
- 手書きの診療記録の判読負荷の高さ

効果

- 患者とのコミュニケーションを維持しながら、診療記録の電子化を実現
- より詳細な診療情報の記録により、医師間の情報共有と引き継ぎを円滑化

背景・課題

患者に寄り添う診察スタイルを維持しつつ、デジタル化への対応を強く意識

兵庫県神戸市に所在する阿部クリニックは平成2（1990）年に創立。院長である阿部仁氏と息子の阿部昌巳氏の二人で患者の医療と健康を支えてきた。診察は月間のべ450人程度、多いときで1日あたり約50人の患者を診察する、地域に根差したクリニックだ。患者層は子供から高齢者まで幅広く、地域住民だけでなく遠方から来院する患者も少なくない。院長である阿部氏は、患者一人ひとりの背景や人生観、家族構成などを深く理解し、診察に活かすことを重視している。時には世間話に花を咲かせ、患者の旅行の思い出や趣味などに耳を傾けることも、阿部氏の診察スタイルの特徴だ。患者からは「顔を見て話を聞いてくれるので安心できる」と厚い信頼を寄せられている。しかし、このような対話を重視する診察スタイルは、長年の紙カルテ運用においては課題も抱えていた。以前はカルテへの記載に十分な時間を確保できなくても、患者の情報を記憶しながら診療を続けることができていた。しかし、年月の経過とともに患者数が増加し、自身の年齢も重ねるなかで、そのような診療スタイルを維持することが難しくなっていた。また、紙カルテに手書きで記録するため、患者の詳細情報を記載しきれず、複数の医師が関わる場合、診療情報の共有や引き継ぎが困難だったという。

こうした状況に課題を感じ、改善策として診療のデジタル化の必要性を感じていたと阿部氏は振り返る。

阿部仁氏：患者との密なコミュニケーションを維持しつつ、デジタル化を進める必要性を感じていました。でも、電子カルテの操作に縛られることなく、患者さんの顔をしっかり見て診療を行いたい。電子カルテ化でそれが実現できるかがポイントでした。

選定・導入

HOPE LifeMark-TX Simple typeの生成AI音声入力に着目。患者との対話と正確な記録の両立へ

このような背景から、阿部クリニックはHOPE LifeMark-TX Simple typeの生成AI音声入力の導入を検討することになる。導入の決め手となったのは、患者とのコミュニケーションを妨げずに詳細に診療記録を残せる点だった。

阿部仁氏：初めは生成AI音声入力に対して、本当に診察の役に立つのか半信半疑な部分もありました。しかし販売会社からの説明を聞き、これは私たちのクリニックの課題を解決してくれるツールだと確信しました。特に、話した言葉がリアルタイムで文字起こしされ、SOAP形式でカルテに自動変換される手軽さには驚きました。これなら、患者さんに顔を向けたまま、会話の内容を詳細に記録できると感じました。

AI音声入力の導入はスムーズに進んだ。販売会社による丁寧な説明とサポートにより、操作への習熟も短期間で完了。特に、医学用語への変換精度や入力の簡便さは、IT機器に対して強い専門知識がなくても運用できるシンプルさが評価された。

阿部仁氏：紙カルテから電子カルテへ切り替えたタイミングでもあり、難しい操作が増えて診察に影響がでるのではないかと不安もありましたが、実際に使ってみるとボタンを押して会話するだけで記録が残るので、操作を覚える必要がなく導入がスムーズだと感じました。

活用・効果

会話内容を自動でSOAP形式に記録。方言、医療用語などにもしっかり対応で記録の正確性が向上

実際の運用においては、初診の患者には必ず生成AI音声入力を活用し、患者との会話を余すことなく記録している。再診の患者についても、体調変化や生活上のイベントで重要な情報がある場合には、積極的に音声入力を活用しているという。

生成AI音声入力の導入により、阿部クリニックでは多くの効果が生まれている。最も大きな効果は、診療記録の充実と、患者との対話に集中できることだ。生成AI音声入力の導入後は、患者との会話内容がそのまま詳細に記録されるため、誰が見ても分かりやすい統一された記録が残るようになった。加えて患者が自身の症状について順序だてて話さなくとも、生成AIがSOAP形式（主観的情報、客観的情報、評価、計画）に自動的にまとめてくれる機能は、カルテの質の向上に大きく貢献しているという。開発時の検証では、5分の会話であれば約10秒で要約が自動生成されるという結果も出ている。*1

また患者とのコミュニケーションの質にも貢献している。生成AI音声入力がお話を記録してくれるため、キーボード入力に時間を割くことなく、患者と顔を合わせたままじっくり話を聞くことができる。

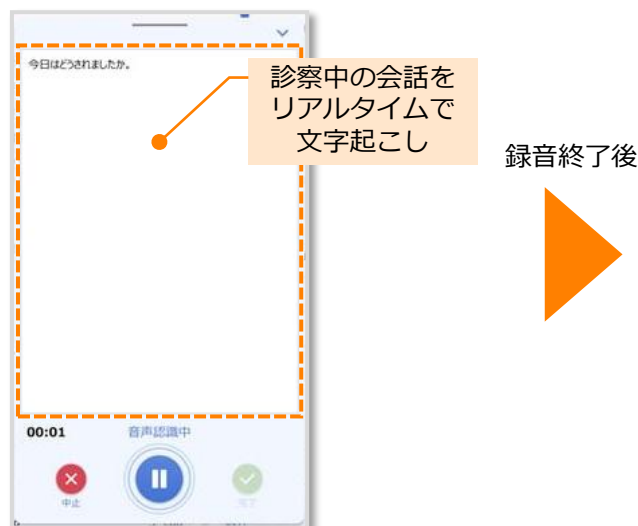
阿部仁氏：以前は、患者さんと話しながら、頭の中に『この患者さんはこういう人だ』と記憶しながら診療していました。しかし音声入力があれば、そうした思考の負荷から解放され、純粹に患者さんと向き合うことができます。密にコミュニケーションをとることで患者さんの情報量も増えましたね。

阿部昌巳氏：紙カルテ時代は、診療記録は要点の記述のみが多く、患者を引き継ぐ際に父に詳細を確認する必要がありました。しかし音声入力のおかげで記録が充実し、手間がかなり解消されたと感じます。患者さんのちょっとした一言も記録に残せるので、カルテを読むだけで診察の状況をすぐに把握できます。また、膨大な会話量でも自動的にSOAP形式に整理されるので、読みやすさが格段に向上しました。

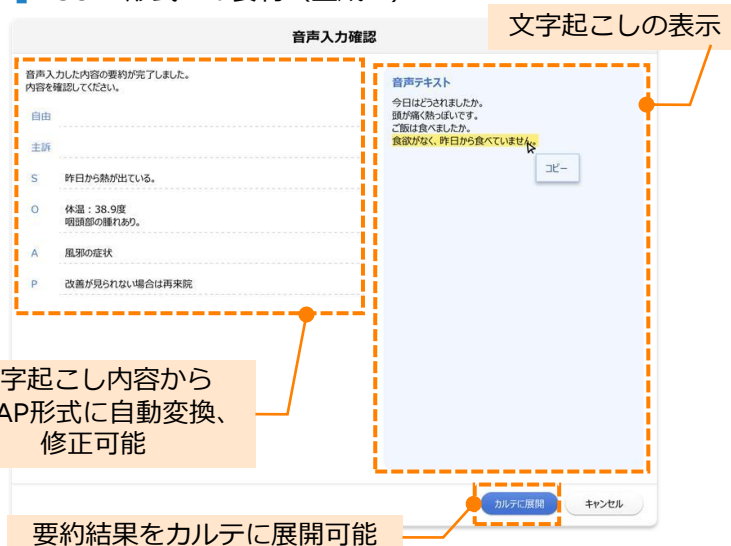
さらに、AI音声入力の品質についても、高い評価を得ている。特に、会話内容を医学的な文脈に合わせて正確に変換する能力や、方言にも対応できる点は阿部氏を驚かせた。音声認識の精度を表すWER（単語誤り率）は約12%となり、一般的に言われる15～20%を下回る高精度を実現している。*2
患者との日常会話を医療用語として自動変換する機能も優れており、最終的な記録はほぼ手で修正する必要がなく、カルテへの展開が可能だという。

阿部仁氏：はじめは方言や医学用語を正しく理解してくれるか不安でしたが、問題なく変換されています。また、会話をそのまま文字に起こすのではなくAIが自動で修正し、整理された状態で出力されるのには驚きました。会話内容からAIが予測して症状や治療方針を提案しているのですが、それらをそのまま活用できるので、カルテの修正がほとんど必要ありません。

リアルタイム文字起こし



SOAP形式への要約（生成AI）



今後の展望

生成AI音声入力の可能性はさらに広がる “患者と向き合う診療”を続けるために

阿部クリニックでは、生成AI音声入力を単なる業務効率化ツールではなく、“患者と向き合う時間を増やすための仕組み”として、今後も活用していきたいと考えている。

阿部仁氏： HOPE LifeMark-TX Simple typeのAI音声入力は、患者に寄り添う私たちの診察スタイルを維持しつつ、電子カルテ化を推進するための強力なパートナーです。今後はサマリーや紹介状作成などもAIで自動生成できるようになれば、さらに業務効率化につながると思います。

医療DXの推進など、クリニックを取り巻く環境が変化する一方で、電子カルテ化に対して不安を感じるクリニックは少なくない。そのなかで阿部クリニックでは、患者とのコミュニケーションを大切にする診療スタイルを維持しながら、HOPE LifeMark-TX Simple typeの生成AI音声入力を活用することで、医療DXに求められる環境を整えていく。

生成AI音声入力は、業務効率化のための機能にとどまらず、患者との対話を大切にする診療を支援するツールとしての役割も果たしている。

「電子カルテを導入したいが、操作や運用に不安がある」「電子カルテの操作が増えることで、患者とのコミュニケーションが希薄になってしまうのでは」*3。そんな不安を抱えているクリニックにとって、生成AI音声入力は電子カルテ導入への第一歩を後押しするツールとなるだろう。

*1*2：開発検証時の数値です。

*3：厚生労働省 第1回標準型電子カルテ検討ワーキンググループ資料について

mhlw.go.jp/content/10808000/001178649.pdf

* 本コンテンツに記載されている会社名・製品名等は、各社の商標または登録商標です。

* 本コンテンツに記載されている会社名製品名等は、必ずしも商標表示していません。

* 本コンテンツに記載の肩書きは、取材当時のものです。



“

患者と向き合う時間を大切にしながら
診療記録の質向上と円滑な情報共有を実現する
生成AI音声入力が、その実現に大きな役割を果たす

”

阿部クリニック 院長 阿部 仁 氏
阿部 昌巳 氏

阿部クリニック様

所在地：651-0096兵庫県神戸市中央区雲井通6-1-5

東急REIホテル コスモビル2F

標榜科目：内科・循環器内科

URL：<https://abecli.jp/>

阿部クリニックは兵庫県神戸市に所在するクリニック。診察は専門の循環器をはじめとした内科一般。特に高血圧や心臓血管病については、専門性の高い医療を提供する。丁寧な病歴聴取と適切な診断、患者さんの話をよく聞いて、わかりやすく詳しく説明することをモットーにしている。

お問い合わせ先

富士通のヘルスケアソリューションに関するお問い合わせ・ご相談

富士通Japan お客様総合センター

TEL 0120-835-554（通話無料）

受付時間：9時～12時、13時～17時30分（土曜日・日曜日・祝日・当社指定の休業日を除く）

Webでのお問合せ・資料ご請求など

 お問い合わせ

当社はセキュリティ保護の観点からSSL技術を使用しております。